

町田市・多摩市と連携して

「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて！

菅政権が誕生し、今秋のデジタル庁設置をはじめ我が国のデジタル政策は大きく加速しました。他方で、地元をまわると、デジタル化により社会から孤立してしまうのではないかという不安の声もたくさん耳にします。

こうした中、我が国のデジタル化に向けた基本方針では「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」を謳っていますが、これを絵に描いた餅に終わらせてはなりません。携帯を使えない人が使いこなせるようきめ細かくサポートする、あるいは携帯を持っていない人の行政手続き等を代行するための支援員の存在が不可欠になります。こうした担い手として、地域のICT企業、社会福祉協議会、シルバー人材センター等が想定されますが、全国の身近な場所に存在する携帯ショップが期待されています。政府はすでに「デジタル活用支援事業」を用意し、今年度だけでも携帯ショップ等1,800箇所計9万回のワークショップを開催します。

私達は加藤官房長官にも参加していただいていた少人数の勉強会を開催し、デジタルデバインド対策(*)の議論を続けてきました。来年度以降は上記の「デジタル活用支援事業」の開催頻度や予算を増やし、更にはワークショップ形式に加えて常設型の支援も設けることなどによって、デジタル大

(*)デジタルデバインド…インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

国デンマークのITカフェに近い形の手厚い支援になるよう政府と調整しています。

地元町田市・多摩市でもデジタルデバインド対策をきめ細かく実現すべく、総務省、町田市・多摩市の担当者、町田市・多摩市議会議員、携帯ショップ等をオンラインで繋ぎ、意見交換会を開催しました。この意見交換会を通して、町田市・多摩市がこの事業に意欲的に取り組んでいくことになりました。この事業は国の全額負担なので、自治体の持ち出しはありません。国と地元自治体との情報格差を解消していくことで地元で事業を実現していくのも国会議員の重要な任務だと感じています。



自民党町田支部の都議会議員・町田市議団

私達も、小倉まさのぶさんと共に、東京都、町田市のためにがんばります。



東京都議会議員 星だいすけ

吉原修都議会議員(5期)の勇退に伴い、先の都議会議員選挙で初当選させて頂きました。



熊沢 あやり



いわせ 和子



おさむら 敏明



佐藤 伸一郎



藤田 学



若林 あきよし



三遊亭 らん丈



渡辺 げんたろう



石川 よしただ



木目田 ひでお

各地区(町田・南・堺・忠生)の小倉まさのぶ通信も配布しています。ご覧になりたい方はご連絡ください。HPからダウンロードも可能です。

衆議院議員 小倉まさのぶ事務所

@masanobu_ogura ogura.masanobu

町田事務所: 〒194-0013 東京都町田市原町田5-4-7 からかあさ101号 TEL: 042-710-1192
多摩事務所: 〒206-0041 東京都多摩市愛宕4-9-22 池田ビル103号 TEL: 042-400-1751
[E-mail]info.oguramasanobu@gmail.com [HP]http://www.ogura-m.jp/

衆議院議員 町田市・多摩市選出 (自民党東京都第23選挙区)

真摯に、ひたむきに。



小倉まさのぶ通信

2021年 vol.3 | 町田 | 鶴川 地区版 |



国会議員はどのように地元の要望を実現すべきか ～8年半の議員活動で考えてきたこと～

地元活動をしております「国会議員は国民の代表者なのだから、国のために仕事をして欲しい」との声がある一方で「町田市・多摩市の国会議員なのだから、地元に残して欲しい」との声も聞きます。一見相反する意見のようにみえますが、私は双方の意見は矛盾するものではないと思います。町田市や多摩市などの地方自治体は、地域に身近な窓口として自治体の業務だけでなく国の業務も担っています。地方分権が進み自治体の責任の下で行う業務が増えてきたとはいえ、自治体は今も四割程度の税収で六割もの仕事をこなしています。ギャップの二割は地方交付税や各種補助金という形で国から自治体に財源移転されます。この割り振りを国が行いますが、今はそれぞれの地域の財政需要が国の財源を遥かに上回っていますので、真に必要な支援が国から全ての地域に行き届いているとは言えません。そのギャップを埋めるのが国会議員の役割のひとつだと思います。

衆議院議員は(比例復活の議員を除き)289の小選挙区にそれぞれ一人ですから、その議員が地域の事情を国に伝えなければ、国はその地域の特殊事情に目を向けることは殆どありません。私が国会議員になって初めて地元の市長との予算要望活動を行うようになりました。例えば、町田市は多摩川の流水域に面していないので市単独の下水処理場を水系毎に二つも抱えています。大変珍しいことではありますが、その分、他市と比較して財政負担が重くのし掛かっています。このような事情

を数年にわたって総務大臣に説明をした結果、特別交付税という市が自由に使える交付金が従来より4倍の年間約2.4億円となりました。

また、地元に必要なものは国からの予算だけではありません。地方自治体の責任が拡大するにつれ、医療や教育などの国の政策が必ずしも自治体の現場で実践されない課題も出てきました。例えば、国は教育のデジタル化を推進しています。平成30年度より国は児童生徒3人あたり1台の教育用タブレット・コンピュータを用意できるだけの財政支援を行っていましたが、この支援は地方交付税という紐付きの補助金ではなく自治体の判断で自由に使える交付金のため、多くの自治体では他の事業に交付金が使われてしまい、結果として教育用コンピュータの整備が遅れてしまいました(令和元年度補正予算により別枠で一人一台端末の予算が確保されたので、これにより大幅に整備が進むことになりました)。したがって、国の政策を地元の都議会議員や市議会議員と共有し(他方で都や市の事情を国の政策に反映させることもあります)、国と自治体で整合性のとれた政策にしていくことも国会議員の使命であるとも思い行動してきました。

国会議員、都議会議員、市議会議員が役割分担したうえで町田市・多摩市の発展のためにシームレスに連携することが重要と考えて行動していきます。

【町田市鶴川地区との要望活動と成果は中面に記載】



国から町田市への交付金額 大幅増額を実現！

特別交付税は、災害や特別な地域事情により地方自治体が資金不足にならないよう臨時的財源として国から交付されます。複雑な算定式を経て決まる交付税総額の6%と定められており、全ての地方自治体が一定の水準を維持できるよう総務省も算出していますが、それぞれの地域実情を全て把握しているわけではないので、その地域の事情と交付額が乖離しているケースも散見されます。

Profile

衆議院議員 小倉まさのぶ 町田市・多摩市選出 (自民党東京都第23選挙区)

- 1981年 5月30日 多摩市生まれ、町田市在住
- 2000年 3月 栄光学園高等学校 卒業
- 2004年 3月 東京大学法学部 卒業
- 4月 日本銀行 入行
- 2009年 7月 オックスフォード大学大学院 修了
- 2012年 12月 第46回総選挙にて初当選
- 2014年 12月 第47回総選挙にて2期目当選
- 2017年 8月 総務大臣政務官 就任
- 10月 第48回総選挙にて3期目当選
- 11月 総務大臣政務官 再任
- 2019年 7月 桜美林大学客員教授 就任

目指せチャンネル登録1000人！
小倉まさのぶチャンネル

YouTube



町田市 / 鶴川地区 小倉まさのぶ8年半の活動成果



鶴川駅は、町田駅前に次ぐ町田市の副次核として指定されています。その鶴川駅前を筆頭に、鶴川地区は極めて魅力に溢れたエリアです。都心へのアクセスに優れ、緑豊かな環境に恵まれ、大学も3校あります。小倉まさのぶは、鶴川地区のこうした魅力を存分に活かし、活気ある街づくりを目指しています。

もっと便利に安全に 鶴川駅周辺の再整備

鶴川地区の更なる発展の鍵を握るのは、やはり鶴川駅周辺の整備です。

鶴川駅に魅力的な商業施設とその周辺地域で生まれた人の流れを、**武相荘**や美しい池泉回遊式庭園を有する**香山園**といった地域の貴重な資産に誘導できるよう、交通網の整備も重要です。現在、駅前の渋滞は、交通安全や防災の観点からも見逃せない課題であり、市民の安心安全な生活を守るためには今後、**生活道路の拡幅工事**なども行っていく必要があります。また、バランスのとれた駅前開発のためにも**駅南側に道路や公園**といった公共施設を整備していくことも重要です。

小倉まさのぶは、このような未来を皆様と描きながら、鶴川駅前を副次核としてふさわしい賑わいを創出できる空間に再整備できるよう、石阪丈一市長と共に、毎年、国土交通省へ予算要望を行っています。



鶴川商店会主催のフェスタ鶴川でご挨拶。



FC町田ゼルビアのオーナーでもある株式会社サイバーエージェントの藤田社長と武相荘にて。



香山園の完成イメージ (提供:町田市)

安心して暮らせる住環境を 鶴川団地の再生

小倉まさのぶは初当選直後からUR議連に所属し、団地に関する様々な提言を行い、居住者負担の軽減や居住環境の改善に努めてまいりました。UR都市機構は前身の旧住宅公団時代からわが国の住宅政策の一翼を担っています。このような公的役割を尊重し、自民党と公明党が政権復帰した直後の2013年には、民主党政権の時に進めていたUR都市機構の民営化を凍結しました。その後も、**家賃の引き上げ見直し**や**修繕負担の大幅削減**、**エレベーター設置**や**バリアフリー改修**等、団地の住環境整備に尽力してきました。また、団地居住者の高齢化が進む中、ご家族が安心してご両親の近くに住めるよう、「近居割」や「U35割」等を新設し、子育て世帯や若年世帯の入居促進も図ってきました。

鶴川団地には耐震化を進めるための大規模な建て替え計画があります。小倉まさのぶは、全国トップクラスの活気を誇る商店街が将来にわたって地域の皆様の生活を支えられるよう、商店街や自治会の皆さまからご意見をお伺いし、UR都市機構と幾度となく協議を重ねてまいりました。その結果、建て替えに伴う**工期の短縮**や、建て替え期間中も



国士舘大学 (町田キャンパス)の学園祭



鶴川団地センター名店会の皆様との意見交換。

賑わいを絶やさぬよう**営業を続けながらの改修**を可能にすること、**建て替え中もスーパーの営業は継続**すること、**大規模駐車場を確保**すること、**住居棟とのバリアフリー化**、**憩いの広場を大きくとること**などを計画に反映することができました。

あわせて、ご高齢の方も多住居棟の皆様の建て替えに伴う不安を解消できるよう、UR都市機構に働きかけています。

近隣の国士舘大学の学生との交流も深め、鶴川団地が鶴川駅前と並ぶ鶴川地区の賑わいの拠点であり続けるよう、小倉まさのぶは今後も汗をかいてまいります。

生き生きした活力溢れるまちづくり 公園整備

野津田競技場と公園の改修を実現！



改修前の野津田競技場



改修後の野津田競技場

野津田公園は世代を超えて自然の中でスポーツを楽しめる施設として30年以上に亘り、市民に愛されています。小倉まさのぶは、野津田公園や園内に併設された諸施設の整備・改修予算を政府に要望し、これまでに**約1.5億円**の予算をつけていただくことができました。

FC町田ゼルビアのホームスタジアムである野津田競技場(町田GIONスタジアム)にはスタンド席が設置され、**1.5万人を収容できる施設**へと生まれ変わりました。また、旧型の大型ビジョンは、カラーに対応したスタイリッシュな物に生まれ変わりました。今後は、北側拡張区域に人工芝の多目的グラウンドなどが整備される予定です。小倉まさのぶは今後も、より多くの皆様に楽しんでもらえる公園づくりに取り組んでいます。



石阪丈一市長と共に国土交通省へ予算要望



改修前の電光掲示板



カラー画面・動画、リプレイ映像が表示可能な大型表示板



私もFC町田ゼルビアを応援しています。

自然と歴史に触れる「薬師池公園四季彩の杜」「三輪緑地」



多摩自由民権運動の立役者である石阪昌孝氏(衆議院議員、初代神奈川県議会議長)のご子孫の石阪さんと。



三輪の森ビジターセンター

(提供:町田市)

小倉まさのぶは、鶴川地区の持つあらゆる魅力を最大限に活かすことで、賑わいを創出していきたいと考えています。

そのため、国土交通省へ公園整備に係る予算を要望し、**薬師池公園四季彩の杜**を1年を通じ四季折々の自然を楽しむことが出来る公園へと整備いたしました。今後は、豊かな自然や田園風景を後世に継承する緑地として北園を整備するとともに、リス園の飼育施設の改修等、憩いの場としての魅力の更なる向上に取り組んでいます。

また、三輪緑山には、隣接する「こどもの国」などから観光客を迎え入れるため、**三輪の森ビジターセンター**を整備しました。

安心安全な暮らしを守る インフラ整備の重要性

三輪緑山にある**鶴見川クリーンセンター**は、町田市北部の重要なインフラを担っています。稼働から30年以上が経過し、人口増に伴う**汚水処理能力の向上**や、**施設の耐震化**などが喫緊の課題となっています。小倉まさのぶは、石阪丈一市長と共に毎年要望している**特別交付税**や**補助金**を通じて、町田市による老朽化したインフラの改修を後押ししています。



武田良太総務大臣へ石阪丈一市長と共に特別交付税の拡充を要望。今年の予算要望はオンラインです。